

表－1 “徐福” 記述文献時代別成立分布と経緯

時代区分 (期間)	国 別					“徐福” 文献記述の経緯(主として日本関連)
	中国	台湾	韓国	日本	合計	
弥生時代 (～259)	6				6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BC221年: 秦の始皇帝中国統一</li> <li>・司馬遷『史記』(中国正史、BC91完成)に徐福の東渡記載</li> <li>・BC210年: 「方士徐福等東海に入りて仙薬を求めらる」 (童男童女、百工帯同、五穀の種を携行)</li> <li>・班固『漢書』: 「徐福たちは始皇帝から逃れ天下の怨恨をかう」 (・248年: 卑弥呼死す)</li> </ul>
古墳時代 (260～591)	2				2	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・266年: 老与が晋に朝貢を遣わす)</li> <li>・297年: 陳寿『三国志』: 「徐福ら葦叢洲にたどり着き帰らず」</li> </ul>
飛鳥時代 (592～709)	2				2	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・592年: 推古天皇、聖徳太子摂政)</li> <li>・700年頃: 具競『貞観政要』(平安時代: 藤原家の帝王学書)</li> </ul>
奈良時代 (710～793)	4				4	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・710年: 平城京遷都、天明天皇)</li> <li>・727年: 順況の詩: 「徐福は東海へ船出て新羅へ行つた」</li> </ul>
平安時代 (794～1191)	12			5	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・794年: 平安京遷都、桓武天皇、坂上田村麻呂征夷大將軍)</li> <li>・805年: 鴻漸、空海の帰国に際し徐福を引用して惜別の詩を贈る</li> <li>・958年: 釋義楚『義楚六帖』: 「徐福の日本渡来を初めて記述した」</li> <li>・唐詩(李白、白楽天)の引用で、船の中で老いてゆく徐福を記述 『宇津保物語』、『源氏物語』、『紫式部日記』、</li> <li>・1055年 歌陽脩「日本刀歌」徐福の百工の技術で日本刀が出来た</li> </ul>
鎌倉時代 (1192～1333)	4			6	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1192年: 鎌倉幕府開府、後鳥羽天皇、源頼朝征夷大將軍)</li> <li>・『平家物語』、『海道記』李白、白楽天の詩の引用</li> <li>・1279年: 宋僧無学禪師「献香於紀州熊野靈祠」を詠む</li> </ul>
室町時代 (1334～1575)	1		2	18	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1334年: 建武中興、後醍醐天皇、足利尊氏征夷大將軍)</li> <li>・1340年北畠親房『神皇正統記』: 「徐福と孔子全経日本渡来を記述」</li> <li>・1376年: 絶海中津、明太祖高皇帝謁見で熊野の徐福祠の詩を交換</li> <li>・玄棟『三国伝記』: 「蓬莱は富士山、徐福が隠れ住み、子孫は秦氏」</li> <li>・1471年: 申叔舟『海東諸国記』: 「徐福は妙薬求めて紀伊で暮らした」</li> </ul>
安土桃山時代	3			1	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1576年: 安土城開城、正親町天皇、織田信長)</li> </ul>
江戸時代 (1603～1868)	3			87	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1603年: 江戸幕府開府、後陽成天皇、徳川家康)</li> <li>・富士山と徐福を結びつけた著述多数。『丙辰紀行』、『東海道名所記』、『北窓瑣談』(徐福は富士山で暮らし、後に鶴になる)</li> <li>・各地に伝わる徐福伝説: 八丈島、愛知県熱田市、鹿児島県串木野市、京都府伊根町、宮崎県延岡市、福岡県八女市、佐賀市、</li> <li>・徐福伝説の創作、幕府の命による通史『本朝通鏡』(1670年)</li> </ul>
近代 (1869～1945)	1			40	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1869年: 東京遷都、明治⇒大正⇒昭和)</li> </ul>
現代 (1945～2003)	59	7	7	250	323	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・1945年: 第2次世界大戦終結、昭和⇒平成)</li> <li>・1972年: 日中国交正常化</li> </ul>
“徐福村” 発見後 (1982～2003)	55 (57%)	6 (86%)	6 (67%)	184 (45%)	251 (48%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1982年: 江蘇省連雲港市カンユ県に羅其湘ら「徐福村」を発見</li> <li>・1986年: 汪向荣(中日関係史研究会)「中国の徐福研究」発表</li> </ul>
合計	96	7	9	404	520	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1989年: 日中合同シンポジウム「徐福伝説を探る」開催(佐賀市)</li> </ul>

表－2 20世紀“徐福”記述文献成立分布

区分	期間	国 別					備 考
		中国	台湾	韓国	日本	合計	
1	1901～1910				3	3	
2	1911～1920				6	6	
3	1921～1930				17	17	
4	1931～1940	1			11	12	
5	1941～1950				4	4	・1945年：第2日世界大戦終結
6	1951～1960				13	13	
7	1961～1970				12	12	・1972年：日中国交正常化
8	1971～1980	3	1	1	37	42	
9	1981～1990	15	3	1	66	85	・1982年：「徐福村」発見 ・1986年：汪向荣「中国の徐福研究」発表 ・1989年：日中合同シンポジウム(佐賀市)
10	1991～2000	35	2	2	99	138	・1995年：徐福国際シンポジウム(秦皇島) ・1997年：徐福国際シンポジウム(千童鎮) ・1999年：徐福サミット(新宮) ・2000年：徐福国際シンポジウム(秦皇島)
(構成比%) 20世紀計		(16%) 54	(2%) 6	(1%) 4	(81%) 268	(100%) 332	・1901年～2000年累計
1982年以降計 (構成比%)		55 (57%)	6 (86%)	6 (67%)	184 (45%)	251 (48%)	・1982年：徐福村発見 ・1982年～2003年累計
総累計		96	7	9	404	520	・紀元前91年 司馬遷『史記』完成 ・紀元前91年～2003年累計

遠 志保著『徐福論—いまを生きる伝説』(新典社、2004年)

作成：前田秀一 2005年1月21日